

中・高校生の喫煙に関する態度と知識

渡 辺 紀 子*

(1991年10月15日 受理)

The Attitude and Knowledge about Smoking among Junior and Senior High School Students

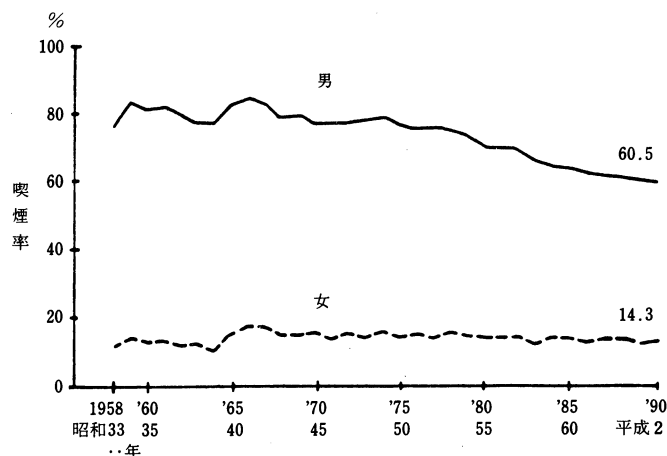
Noriko WATANABE

I は じ め に

近年、喫煙及び受動喫煙の健康への悪影響が明らかにされ¹⁾⁻⁷⁾、成人の喫煙率は減少の傾向にあるが(図1)⁸⁾、しかし青少年の喫煙は逆に増加し、喫煙開始の年齢もだんだん低下してきている⁹⁾。最近、喫煙者の多くは未成年期に喫煙をはじめているといわれる¹⁰⁾。

喫煙は各種疾病の発生要因となり、また一度喫煙習慣が身につくと禁煙はきわめて困難であるが¹¹⁾、青少年からの喫煙は一層健康に有害であり、若い時からの喫煙習慣はさらに断ちにくい¹²⁾⁻¹⁴⁾。またすでに青少年喫煙者に呼吸器系障害も認められている¹⁵⁾。

青少年をこのような喫煙の害から守り、健康に有害な喫煙習慣を身につけさせないことは、非常に重要であり、そのための喫煙防止教育の必要性は大きい。喫煙防止教育に対する種々のとりくみがおこなわれ^{10), 16)-20)}、小学校からの喫煙防止教育も試みられている^{21) 23)}が、まだ多くの課題



資料：日本たばこ産業株式会社「全国たばこ喫煙者率調査」

図1 日本における喫煙者率の年次推移⁸⁾

*鹿児島大学教育学部保健体育科

が残されている。今回は鹿児島県の都市部と郡部の中・高校生を対象に、喫煙習慣の実態、喫煙に対する態度とその知識等について調査し、喫煙防止等に関する現状について検討した。

Ⅱ 調査の方法

鹿児島県の都市部と郡部の公立中学校と公立高校それぞれ一校ずつ、各校3年生全員を対象に1985年11月、保健の授業時間やホームルーム時にアンケートによる調査を実施した（集合法）。調査内容は、喫煙状況、喫煙環境（家族の喫煙等）、未成年者・成人の喫煙に対する態度、喫煙の有害性に関する知識等27項目からなり、無記名回答で、回答用紙は各人で回答用紙に添付の封とうに入れ、密封したものを回収した。

調査対象者の家庭の職業は、都市部では約70%が公務員や会社員、約30%が商業・自営業であったが、郡部は約60%が公務員や会社員、約20%が商業・自営業で、残り約20%は農林水産業であった。高校は都市部郡部とも進学率90%をこえる普通科高校である。

回答数は都市部中学生241名（男子129名、女子112名）、郡部中学生198名（男子108名、女子90名）、都市部高校生418名（男子214名、女子204名）、郡部高校生295名（男子162名、女子133名）で、回収率は約91～99%であった。

Ⅲ 調査の結果

1. 喫煙状況

今までに喫煙を経験したことのある者（喫煙経験者）は表1に示すように、高校生では都市部と郡部に差はなく、全体で男子12.5%、女子3.9%であり、中学生も郡部は男子9.3%、女子2.2%で比較的少なかったが、都市部中学生は男子19.4%、女子18.8%と男女ともに多かった。このうち喫煙習慣を持つ者（時々、あるいは毎日喫煙－喫煙習慣者）は男子では都市部中学生9名（7.0%）、郡部中学生2名（1.9%）で、毎日喫煙者は都市部に2名のみであった。高校生の男子喫煙習慣者は都市部・郡部とも8名（それぞれ3.7%、4.9%）で、毎日喫煙者は中学生より多く、5名（2.3%）及び7名（4.3%）であった。女子の喫煙習慣者は都市部中学生4名、郡部

表 1 喫煙経験について

喫煙経験者数/回答者：(%)

(地 域)		都 市 部	郡 部	合 計
中学生	男子	25/129(19.4)	10/108(9.3) *	35/237(14.8)
	女子	21/112(18.8)	2/ 90(2.2) ***	23/202(11.4)
高校生	男子	26/214(12.1)	21/162(13.0)	47/376(12.5) ***
	女子	7/204(3.4)	6/133(4.5)	13/337(3.9)

*P<0.05 ***P<0.005

渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

中学生1名、都市部高校生1名で、毎日喫煙する者は都市部中学生に1人いた。喫煙習慣者の喫煙量は中学生で10本以内/週、高校生で10～20本/週の者が一番多かった。これらの者の喫煙開始は中学生は90%が中学生になってから、高校生は45%が中学生の時また同じく45%が高校生になってからであるが、小学校時代に吸いはじめた者もそれぞれ10%程度いた。

喫煙経験者の喫煙の主な動機は中学生では好奇心(39.3%)、まわりの人がすすっているのになんとか(25%)、友人や大人にすすめられて(21.4%)であり、高校生は好奇心(46.8%)、ストレス解消のため(34.4%)、まわりがすすっているのになんとか(12.5%)であった。また喫煙の場所は中学生、高校生とも自分の部屋が一番多く(44%、37%)次いで友人の部屋(24%、33%)であり、さらに中学生は公園や空地(24%)、高校生は喫茶店・食堂(19%)で吸っている。

2. 未成年者・成人の喫煙に対する態度

図2に示すように未成年者の喫煙は中学生の51.5%、高校生の45.6%と約半数の者が悪い、また中学生の22.5%、高校生の19.5%はどちらかという悪いと答えている。しかし高校生は喫煙は悪いとはいえない・個人の自由であると思っている者が約35%おり、中学生の26%より有意に多かった。また中学生は都市部より郡部の方が、高校生では男子より女子の方が未成年者の喫煙は悪いと思っている者が多かった。

未成年者の喫煙が禁じられている理由として(3項目以内複数回答)、図3に示すように“一

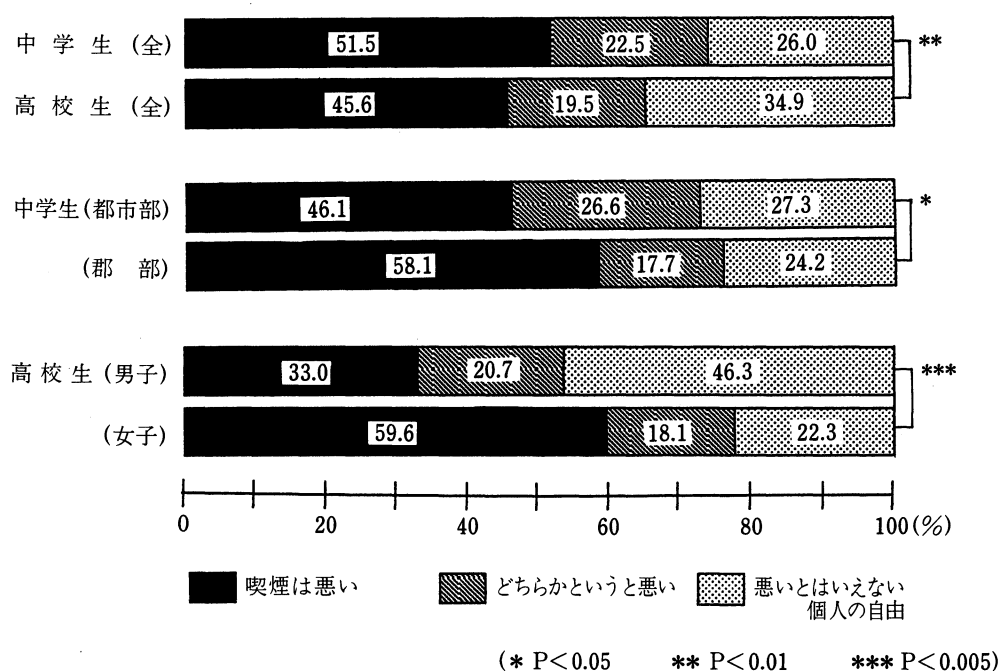


図2 未成年者の喫煙について

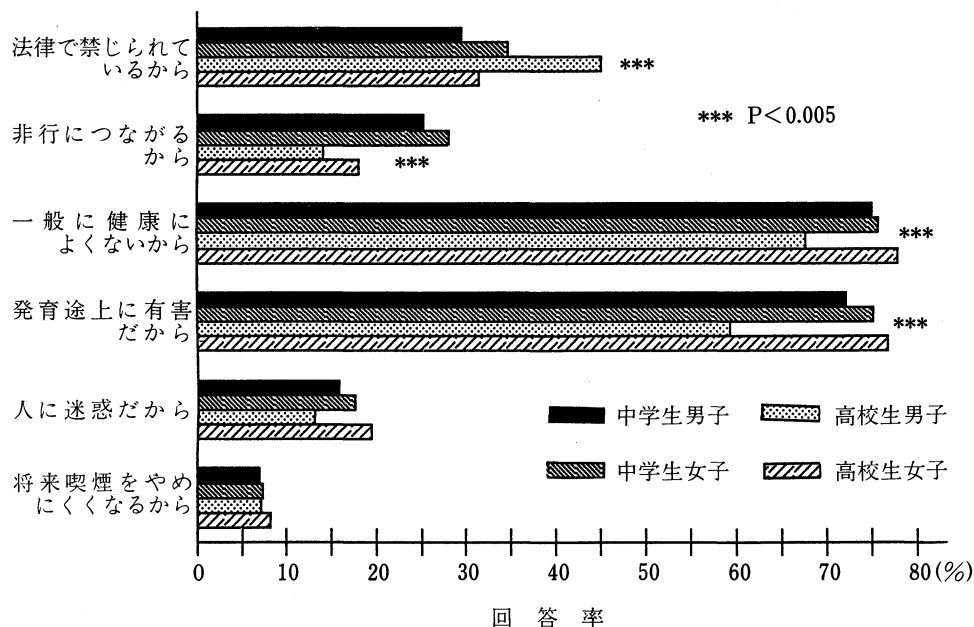


図3 未成年者の喫煙が禁じられている理由 (複数回答)

一般に健康によくないから”“発育途上に有害だから”を約70～75%の者があげている。また“法律で禁じられているから”“非行につながるから”をあげた者は約30～40%いた。しかし“将来喫煙をやめにくくなるから”をあげた者はわずか8%前後であった。高校生男子は中学生男子、女子、高校生女子より“一般に健康によくないから”“発育途上に有害だから”をあげた者が少なく、逆に“法律で禁じられているから”をあげた者が多かった。

成人の喫煙については、成人男子の喫煙は、中学生及び男子高校生は12～15%の者が悪いと答え、女子高校生の24.4%より少なく、逆に中学生及び男子高校生の60%以上の者が喫煙は悪いとはえない・個人の自由であると答え、女子高校生の42.7%より多かった。しかし成人女子の喫煙については、悪いと答えた者が中学生41.5%、高校生62～65%で、悪いとはいえない・個人の自由であると答えた者は中学生32.1%、高校生男子25.5%、高校生女子16.6%といづれも少なかった(図4)。喫煙に対する態度は、未成年者・成人の喫煙とも中学生では男女差はみられなかったが、高校生では男子は喫煙に対してより肯定的であり、女子はより否定的であった。

成人の喫煙が悪い、どちらかという悪いと答えた者がその理由として、成人男子の喫煙では中学生・高校生とも第一に健康に悪いから(約50%)次いで人に迷惑だから(約36%)をあげているが、成人女子の喫煙は、悪い理由として中学生・高校生とも第一に感じが悪いから(約49%)、次いで健康に悪いから(約41%)となっている(図5)。これらに男子生徒・女子生徒、また学校による違いは認められなかった。

渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

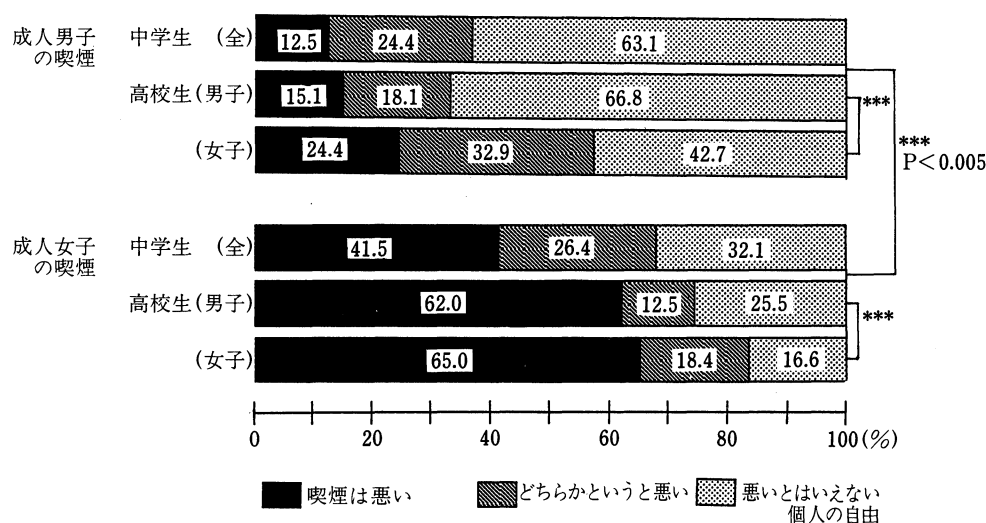


図4 成人の喫煙について

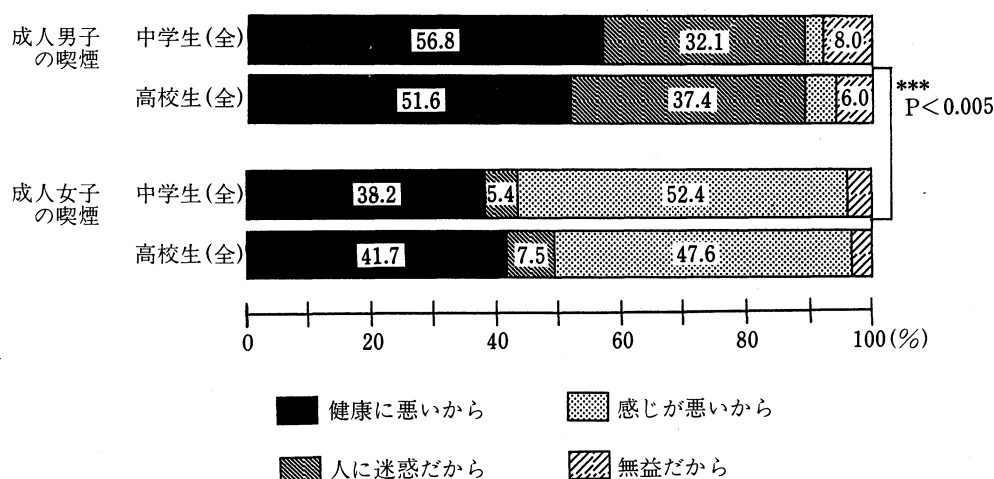


図5 成人の喫煙が悪いと思う理由

3. 喫煙の有害性に関する知識

喫煙の有害性については、表2に示すように中学生高校生とも約90%の者が喫煙は健康に有害であることを知っていた。また受動喫煙も85%以上が健康に有害であると答えている。さらに受動喫煙は不快感等人に迷惑であると答えた者が約10%前後いた。自身の喫煙は少量なら健康に影響ないと答えた者が約10%いたが、受動喫煙が健康に影響ないと答えた者はわずか2%程度であった。しかし嫌煙権という言葉はあまり知られておらず、半数以上が知らなかった。また、中学生より高校生、郡部の生徒より都市部の生徒は嫌煙権についてよく知っている者が多かった。

次に、従来の研究で喫煙との関係が明らかにされた疾病を中心に、10項目について喫煙との関連をたずね、喫煙が関連していると思う者の割合を図6に示した。

表 2 喫煙の影響について

対 象		中 学 生 (439名)	高 校 生 (713名)	都市部・計 (659名)	郡部・計 (493名)
喫煙の健康への影響	非 常 に 有 害	43.7%	49.0%	43.8%	51.1%*
	有 害	44.4	41.9	46.3	38.3
	少量なら影響ない	11.9	9.1	9.9	10.6
受動喫煙の影響	健 康 に 有 害	85.9%	88.2%*	85.0%	90.5%*
	人に迷惑(不快感)	13.4	9.4	12.6	8.7
	健康に影響ない	0.7	2.4	2.4	0.8
嫌煙権について	よく知っている	4.6%	19.8%***	17.0%	9.9%***
	聞いたことがある	17.1	20.6	20.3	17.9
	全然知らない	78.3	59.6	62.7	72.2

*P<0.05

***P<0.005

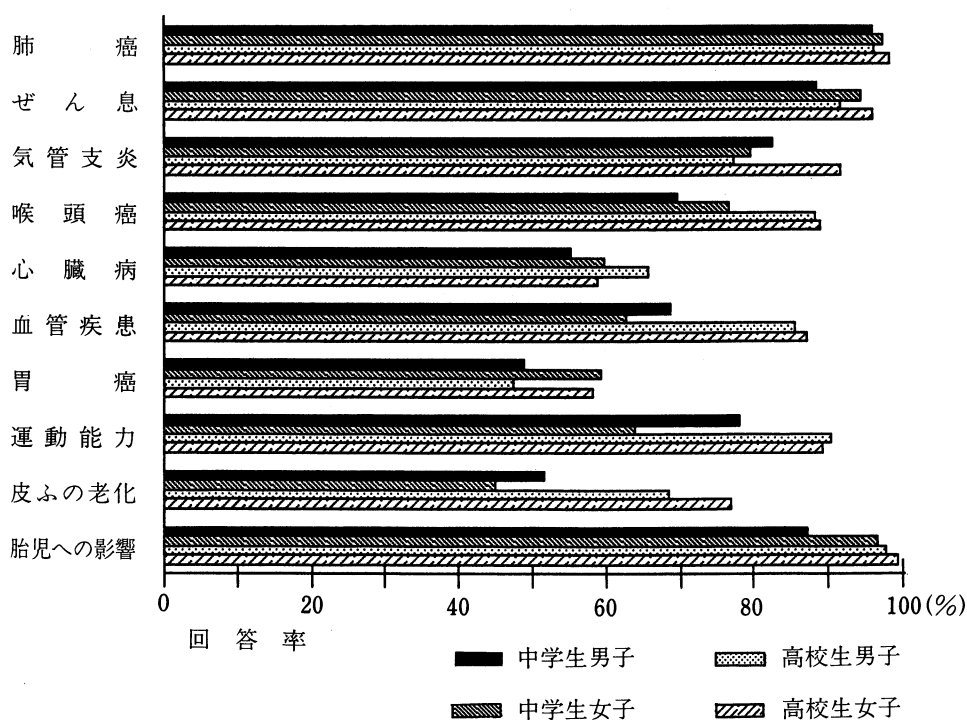


図 6 喫煙関連疾患等についての知識 (回答率—関連ありと答えた者の比率)

喫煙との関連が最もよく知られているのは肺癌，ぜん息で，90%以上の者があげている。次いで気管支炎，喉頭癌等呼吸器系疾患，胎児への悪影響もよく知られていた。しかし心臓病や胃癌については，喫煙との関連はあまり知られていなかった。喫煙との関連疾患については中学生より高校生，男子生徒より女子生徒の方がよく知っている傾向がある。

4. 将来の喫煙

喫煙，受動喫煙の健康への有害性は大部分の者が認めていたが，しかし将来絶対喫煙しないと答えた者は男子中学生で21.1%，男子高校生で34.0%にすぎず，どちらも約30%の者は将来喫煙

渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

表 3 将来の喫煙について

対 象 項 目	男 子 生 徒		女 子 生 徒		男子生徒	女子生徒
	中学生 (237名)	高校生 (376名)	中学生 (202名)	高校生 (337名)	合 計 (613名)	合 計 (539名)
絶対喫煙しない	21.1%	34.0%***	54.5%	68.2%***	29.0%	63.1%***
多分喫煙しない	46.0	37.8	37.6	27.6	41.0	31.3
喫 煙 す る	32.9	28.2	7.9	4.2	30.0	2.6

***P<0.005

表 4 家族の喫煙状況

家 族		都市部中学生 (241名)	郡部中学生 (198名)	都市部高校生 (418名)	郡部高校生 (295名)
喫煙者あり	父 親	140人(58.1%)	96人(48.5%)	202人(48.3%)	143人(48.5%)**
	母 親	27 (11.2)	11 (5.6)	16 (3.8)	7 (2.4)
	兄	19 (7.9)	20 (10.1)	35 (8.4)	50 (16.9)
	姉	1 (0.4)	1 (0.5)	5 (1.2)	4 (1.4)
	祖父母等	28 (11.6)	25 (12.6)	21 (5.0)	11 (3.7)
喫煙者なし		76人(31.5%)	83人(41.9%)	183人(43.7%)	117人(39.7%)

*P<0.05

**P<0.01

表 5 親の喫煙の影響

項 目	調査対象 親の喫煙	中 学 生		高 校 生	
		有(246名)	無(193名)	有(356名)	無(357名)
喫煙経験	あ り	14.6%	11.7%	9.3%	7.6%
	な し	85.4	88.3	90.7	92.4
将来の喫煙	絶対喫煙しない	32.1%	42.4%*	51.1%	50.7%
	多分喫煙しない	42.7	41.9	30.1	35.7
	喫煙する	25.2	15.7	18.8	13.6
未成年者の喫煙	悪 い	49.8%	54.5%	46.2%	44.8%
	どちらかという悪い	27.1	21.2	19.2	20.5
	悪いとはいえない・個人の自由	23.1	24.3	34.6	34.7
成人男子の喫煙	悪 い	8.9%	17.4%*	16.9%	22.5%*
	どちらかという悪い	25.0	23.7	25.5	20.7
	悪いとはいえない・個人の自由	66.1	58.9	53.6	56.8
成人女子の喫煙	悪 い	41.4%	42.5%	65.1%	63.6%
	どちらかという悪い	27.0	25.1	15.2	13.5
	悪いとはいえない・個人の自由	31.6	32.5	19.7	22.9

*P<0.05

したいと思っている。女子生徒は絶対喫煙しない者が男子生徒より多いが、それでも中学生54.5%、高校生68.2%と半数を少し上回っているだけであり、喫煙者予備群は多い。男子生徒、女子生徒とも中学生より高校生に、喫煙しないと思っている者が多かった(表3)。

5. 家族の喫煙

家族の喫煙状況を表4に示す。

生徒の約半数の者は父親が喫煙しており、また母親が喫煙している者もいたが、都市部中学生は父親が喫煙している者58.1%、母親が喫煙している者11.2%と他の生徒群より多かった。都市部中学生は男女とも喫煙経験者が多かったが、しかし生徒の喫煙と父親、母親の喫煙との関連は認められなかった。兄弟や祖父母等、家族に複数の喫煙者がいる者もあり、家族に全く喫煙者のいない者は都市部中学生で31.5%、その他の群は約40%であった。

そこで中学生、高校生を両親のいずれかが喫煙者である者と両親とも喫煙していない者にわけ、親の喫煙の影響をみると(表5)、中学生では親が喫煙している者は将来喫煙しようと思っている者が多かった。また、中学生、高校生とも成人男子の喫煙に対して親が喫煙している者は比較的肯定的であった。

また家族の喫煙者の存在についても同様の結果を示したが、なかでも親の喫煙の影響が大きいことが、うかがえた。

Ⅳ 考 察

成人男子の喫煙率は減少しはじめているが、成人女子や青少年の喫煙率は増加し、東京都及びその近県では、中学生・高校生の喫煙率は男子約20%、女子約10%で、喫煙経験率は50%を越えている²³⁾。

また、中学生は中部地方の都市部で喫煙経験率男子37.3%、女子12.7%、喫煙率男子4.1%、女子0.5%²⁴⁾、北九州地方の都市部で喫煙経験率男子37.8%、女子18.1%、喫煙率男子6.9%、女子2.4%²⁵⁾が報告されている。高校生の喫煙は地域や校種(職業過程校や普通課程校等)によって違うが、北九州地方都市部の普通課程校で喫煙経験率男子55.5%、女子17.4%、喫煙率男子11.9%、女子3.5%²⁶⁾、東北地方の進学率の高い普通課程校で喫煙経験率男子36.1%、女子10.5%、喫煙率男子16.2%、女子2.4%となっている²⁷⁾。今回は都市部・郡部から中学校高校のそれぞれ一校ずつの調査であったが、郡部中学生及び都市部郡部の高校生はこれらの報告より喫煙経験率、喫煙率とも低かった。しかし都市部中学生は喫煙経験率は低かったが、喫煙率はあまり変らなかった。

喫煙経験者の喫煙の動機は、中学生高校生とも“好奇心から”が一番多く、“まわりの人が吸っているのになんとなく”が中学生では二番目に、高校生では三番目に多かった。他の調査^{24) - 26)}

渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

でも喫煙の動機は好奇心からと答えた者が一番多く、小川は¹³⁾、子供は好奇心のかたまりであり、大人の喫煙のしぐさや様子が驚きとあこがれを持って印象づけられ、ここに喫煙習慣の萌芽がみられるとのべており、大人の喫煙の影響は大きい。

喫煙の場所は中学生高校生とも一番多いのが自分の部屋、ついで友人の部屋であり、さらに中学生は公園や空地、高校生は喫茶店や食堂で喫煙しており、内山²⁸⁾の調査でも最近の傾向として同様の結果がみられている。

喫煙は喫煙者自身の健康を害するだけでなく、受動喫煙により、周囲の非喫煙者の健康にも悪影響を与えることが明らかにされてきた²⁾。今回の調査でも、喫煙及び受動喫煙は健康に有害であると中学・高校生とも約90%の者が答えている。しかし受動喫煙は健康に影響はないと答えた者は1~2%であったのに対し、喫煙は少量なら健康への影響は無いと答えた者が約10%いた。これは自分は喫煙したいという願望のあらわれであろうか。喫煙との関連疾患として、肺癌、喉頭癌、気管支炎等呼吸器系疾患は多くの者があげていたが、心臓病、胃癌、その他の疾患はあまり知られておらず、たばこを吸う→のど、肺への影響という連想の結果であろうと思われる。嫌煙権ということばもあまり知られていなかった。

喫煙と肺癌との関連、健康への有害性はほとんどの者が知っていたが、未成年者の喫煙について、中学生及び女子高校生は、大部分の者が喫煙は悪い、どちらかという悪いと答えているものの、悪いとはいえない・個人の自由であると喫煙に対して肯定的考えの者も20~30%おり、また男子高校生では46.3%と半数近く者が肯定的であった。

未成年者の喫煙が禁じられている理由も“健康によくないから”“発育途上に有害だから”をあげた者は約70~75%であったが“人に迷惑だから”、“将来喫煙をやめにくくなるから”をあげた者は少なく、喫煙を禁じられている理由を皆がよく理解しているとはいいがたい。また“法律で禁じられているから”“非行につながるから”と答えた者も約30~40%おり、生徒への喫煙禁止の指導が、健康上の問題としてよりも法律で禁じられていることとしてあるいは非行化防止に重点がおかれていることが⁹⁾、ここでもうかがえる。

成人男子の喫煙が悪いと答えた者は中学生及び男子高校生では十数%にすぎず、逆に60%以上が悪いとはいえない・個人の自由であると肯定的であり、女子高校生でも約43%は肯定的であった。しかし成人女子の喫煙は中学生は約40%が高校生は60%以上が悪いと答え、肯定的な者は中学生約30%、高校生男子約17%、女子約26%であった。成人の喫煙の悪い理由も、成人男子ではまず“健康に悪いから”次いで“人に迷惑だから”であったが、成人女子の喫煙が悪いのは第一に“感じが悪いから”つぎに“健康に悪いから”であり、これらの理由に地域による違いや、中学生高校生、また男女生徒による違いは認められなかった。

一般に成人男子の喫煙には寛容であるが、女子の喫煙にはきびしく、それも健康上の理由ではなく、女性の喫煙をきらう社会習慣に強く影響されているとみられ、ここでも喫煙の健康への有害性がよく理解されているとはいいがたい。女子の喫煙が悪いという習慣が変れば、成人女子の

喫煙も認める者が多くなると思われ、すでに東京近県では男子高校生の約35%が、また中学生や女子高校生の約50%が成人女子の喫煙に肯定的である²³⁾。

将来の喫煙については、絶対喫煙しないと答えた者は女子生徒でも約60%にすぎず、男子生徒では中学生約20%、高校生約30%であった。また男子生徒は中学生・高校生とも約30%が将来喫煙するだろうと答えている。喫煙による健康障害の知識は大部分の者がもちながら、それが実際の喫煙行動と結びつかない。村松²⁹⁾も青少年の喫煙防止教育は単に保健学的面からだけでなく、社会学的、心理学的等の多方面からの検討が必要であるとのべている。

両親や家族の喫煙も子供の喫煙に影響を与え、母親の喫煙の影響は特に大きい^{23) 24) 30) 32)}。今回の調査では、母親が喫煙している者は都市部中学生で約11%、その他は約3~6%で合計61名いたが、中学高校生とも、喫煙経験・喫煙習慣に母親の喫煙の影響はみられなかった。またこれらに父親、家族の喫煙の影響もみられなかった。しかし、中学生では両親のいずれかが喫煙している者は、両親のどちらも喫煙していない者より、将来自分も喫煙すると答えた者が多く、また成人男子の喫煙も肯定的な者が多かった。高校生は親の喫煙の影響はあまりみられなかった。

今回の調査で、喫煙の健康への有害性は大部分の者が、知っているように思われた。しかし、未成年者の喫煙を非行化の問題としてとらえがちであったり、成人男子の喫煙には寛大であるが女子の喫煙にはきびしく、喫煙問題が健康上のこととしてではなく、社会や周囲の習慣、風習の影響を受けていることがうかがえた。また、喫煙の動機も、好奇心からやまわりが吸っているからなんとなく喫煙する者が多く、ここでも周囲の大人達の影響が大きく、喫煙防止教育のむつかしさの一端がうかがえる。

V 結 び

鹿児島県の都市部・郡部の中学・高校の3年生に、喫煙に関する行動、態度、知識等についてアンケートによる調査を行い、次のような結果を得た。

1) 喫煙を経験したことのある者は、郡部中学生及び都市部郡部高校生の男子は10%前後、同じく女子は約2~5%であったが、都市部中学生は男女とも約20%と多かった。喫煙習慣を持つ者は都市部中学生の男子の7%以外は少なかった。

2) 喫煙の動機は、好奇心から、あるいはまわりが吸っているのになんとなく喫煙した者が多く、主に自分の部屋や友人の部屋で喫煙していた。

3) 未成年者の喫煙に対しては中学生では地域差、高校生では男女差がみられ、郡部中学生及び女子高校生は半数以上が未成年者の喫煙は悪いとしている。しかし男子高校生は未成年者の喫煙を悪いとした者はわずか33%で、逆に半数近くの者が喫煙は悪いとはいえない・個人の自由であると肯定的であった。都市部中学生も、喫煙は悪いとした者が少なかった。

4) 成人男子の喫煙については悪いと答えた者は少なく、悪いとはいえない・個人の自由であ

渡辺：中・高校生の喫煙に関する態度と知識

ると肯定的な者が中学生で63.1%，男子高校生66.8%，女子高校生でも42.7%と多かった。しかし成人女子の喫煙は、肯定的な者は逆に中学生32.1%，男子高校生25.5%，女子高校生16.6%と少なく、ほとんどの者が悪いと思っており、成人男子の喫煙には寛容であるが、女子の喫煙にはきびしい態度がうかがえる。

5) 成人男子の喫煙が悪い理由として健康によくないことがあげられているが、女子の場合は感じが悪いからよくないと思っている者が一番多く、成人の喫煙は健康への有害性よりも、男子の喫煙は認めるが、女子の喫煙は嫌うという社会の習慣の影響を強くうけていると思われる。

6) 喫煙及び受動喫煙の健康への有害性は中学生高校生とも約90%の者が知っていた。また喫煙と肺癌、喉頭癌、ぜん息等呼吸器系疾患との関連性、喫煙の胎児への悪影響もほとんどの者が知っていたが、心臓病、胃痛等との関連については知っている者が少なかった。

7) 喫煙の健康への有害性は認めながら、将来絶対喫煙しないと答えた者は男子は中学生21.1%，高校生34.0%と少なく、女子でも中学生54.5%，高校生68.2%にすぎず、また男子中学生高校生とも約30%が将来喫煙したいと思っている。

8) 両親のいずれかが喫煙している中学生は将来絶対喫煙しないと思っている者が少なかった。また成人男子への喫煙も肯定的者が多かった。

終りに、調査に御協力いただきました中学校高校の先生方並びに生徒の皆さん、当時鹿児島大学教育学部学生の佐々木好彦さんに感謝致します。

なお、本報の要旨の一部は、日本体育学会第37回大会（1986年11月、筑波）において発表した。

文 献

- 1) 平山雄，濱野芳子：喫煙と主要死因別死亡率との関係，厚生指標，**28**(4)，3～18，1981.
- 2) 富永祐民：喫煙と健康障害，公衆衛生，**50**(4)，224-229，1986.
- 3) 青木伸雄，堀部博，笠置文善：喫煙と循環器病，公衆衛生，**50**(4)，230-235，1986.
- 4) 生方享司，仲尾美穂，大島明，他：胃癌と飲酒，喫煙の関連，日本公衛誌，**35**(6)，286-292，1988.
- 5) 福場良之，川西昌弘，他：消化性潰瘍の発症に及ぼす喫煙・飲酒習慣の影響について，日本公衛誌，**34**(6)，271-277，1987.
- 6) 加藤育子，富永祐民，鈴木継美：家族歴からみた能動・受動喫煙の影響，日本公衛誌，**35**(2)，74-79，1988.
- 7) 浅野牧茂：喫煙と生活機能，学校保健研究，**24**(12)，552-557，1982.
- 8) 厚生統計協会：国民衛生の動向—1991年版—，P97.
- 9) 大木薫：未成年の喫煙，公衆衛生，**50**(4)，245-250，1986.
- 10) Mario A. Orlandi, Lisa R. Lieberman, 中村正和，他：日本における喫煙防止活動の方向性—KYB 教育プログラムの日本への適用—，学校保健研究，**31**(8)，368-376，1989.
- 11) 小川浩，宮崎恭一，林高春：5日間禁煙講習会の成績，日本公衛誌，**35**(2)，80-84，1988.
- 12) 高石昌弘：喫煙と学校保健，学校保健研究，**24**(12)，551，1982.
- 13) 小川浩：喫煙の心理，公衆衛生，**50**(4)，236-244，1986.
- 14) 皆川興栄：禁煙教育に対する学校医の意識，学校保健研究，**28**(11)，538-545，1986.
- 15) 浅野牧茂：未成年喫煙の健康問題，学校保健研究，**27**(10)，476-484，1985.

- 16) 伊藤章：喫煙予防と学校保健，学校保健研究，**24**(12)，558-561，1982.
- 17) 和唐正勝：アメリカの喫煙予防教育，学校保健研究，**24**(12)，574-577，1982.
- 18) 川畑徹朗，黒羽弥生，高橋浩之，他：学校保健教育における「喫煙と健康」に関する教育についての研究，東大教育学部紀要，**22**，141-170，1982.
- 19) 内山源：学校における「喫煙防止」の学習指導，学校保健研究，**29**(10)，462-467，1987.
- 20) 植松稔：カナダの「無煙空間（スモーク・フリースペース）」，学校保健研究，**29**(10)，452-455，1987.
- 21) 樋口始：小学校における喫煙防止教育の実際，学校保健研究，**27**(12)，566-574，1985.
- 22) 西川房代，小川浩，富永祐民，他：小学校における喫煙防止教育の試み，学校保健研究，**29**(1)，41-49，1987.
- 23) 川畑徹朗，高橋浩之，黒羽弥生，他：中・高校生の喫煙行動および喫煙に対する態度と知識，東大教育学部紀要，**24**，181-207，1984.
- 24) 小川浩，富永祐民：中学生の喫煙—喫煙状況と関連要因—，日本公衛誌，**32**(6)，305-314，1985.
- 25) 白水美智子，柴田彰：中学生の喫煙と諸因子との関連，第一報，喫煙を初めて経験した時の諸状況並びに現在の喫煙習慣，日衛誌，**40**(2)，596-604，1985.
- 26) 白水美智子，広畑富雄，柴田彰，他：高校生の喫煙と諸因子との関連，第1報，喫煙開始及び喫煙継続にかかわる要因，学校保健研究，**28**(12)，589-596，1986.
- 27) 野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究第1報—高校生の喫煙率及び喫煙状況について—，学校保健研究，**26**(12)，571-279，1984.
- 28) 内山源：中学・高校生の喫煙について—学校保健・健康教育の強力な対応を—，学校保健研究，**23**(1)，7-13，1981.
- 29) 村松常司：タバコに係る小・中・高校生のイメージに関する研究，学校保健研究，**27**(9)，431-441，1985.
- 30) 白水美智子，柴田彰：中学生の喫煙と諸因子との関連，第二報，喫煙行動と喫煙による健康障害に関する知識並びに生活環境との関連，日衛誌，**40**(3)，651-658，1985.
- 31) 野津有司：青少年の喫煙に関する調査研究第2報—高校生の喫煙行動に関する諸要因の検討—学校保健研究，**27**(4)，190-200，1985.